第３３回

山口県環境保全型農業フォーラム

# 食の主権をとりもどせ

## ローカルフードという希望

令和６(2024)年２月24日（土）

１０：００～１６：００

会場　KDDI 維新ホール
主催　山口県環境保全型農業推進研究会
　　山口県有機農業推進団体協議会
共催　やまぐちの種子を守る会・ヤッタネ！やまぐち
後援　山口県　山口市

# ご　あ　い　さ　つ

山口県環境保全型農業推進研究会
会長 木村節郎

## 「未来は必ず開ける」

　世の中まったく先が見えない時代。ウクライナやパレスチナでの戦争。いざという時に大国に日本をまもる力も余裕もないことが
ありありとしてきました。
　昨年は酷暑。その後は晴天続きの超暖かな冬でしたが、今年の元旦からの不意打ちの能登の地震、羽田の飛行機事故、北九州小倉の商店街の大火へと続きました。このたびの地震で見えて来たのは公助の限界。経済的支援があっても、それを運び込み、届ける能力がなければ無意味です。これが広い範囲で起こったら、お手上げです。つねひごろ地域内でどう暮らし、ともに生きるかが問われています。
　昨年のフォーラムは鈴木宣弘氏の『あす家族に食べさせるものがない』でした。世界で最初に飢えるのは日本です。食糧生産もエネルギーも肥料も機械の部品も労力もすべて他国まかせ。ほとんど自給できてない国・日本。さらに、土地も水も外国資本に買い占められるおそれがある。
　生きててなんぼじゃ！
生きていてこそすべてがはじまる。戦後食べるものがない時に日本をなんとか支えたのは田舎の力でした。お金は食べられんけれど、水の国・森の国には、海があり、焚きものがあり、草が生えます。やまぐちは、今こそ疎開先になる事の覚悟の時です。そのために生活共同体の構築と、たくましく動物の一員としてしっかり生きられる力をはぐくむ必要がはっきりして来ました。
　あきらめなければ未来は必ず開けます。新時代の到来です。

# ＊＊＊プログラム＊＊＊

9:30　開　場　　司会・安渓貴子（副会長）

10:00　ごあいさつ　　山口県環境保全型農業推進研究会 会長　木村節郎

10:05～12:00　**【活動報告】**

**１　中野茂樹（やまぐち環保研理事）・・・自然栽培でお米 10 俵の方法**

除草なしで 10 ㌃換算 600 キロのお米が！　健康な深い作土の田んぼに作り直す具体的な方法。

**２　児玉純子（上級食育指導士）・・・みんなが笑顔になるエシカル給食の可能性**

環境にやさしく食べ残しがない地産地消の給食をめざす、山口市仁保地域のみなさんの取組。

**３　大下充億（こびとのおうちえん、地球子舎代表）・・・たべる＝生きる＝遊ぶ**

ケニアの田舎に 1 年滞在して希望を見つけ、故郷に帰って始めた、自給自足を目指す幼稚園とフリースクール。

事務局からの情報提供

**やまぐちの種子を守る会からの報告「いま種子が危ない　2023 年の動き」**

12:00～13:30　**昼食・休憩・種子交換会・物販**

弁当・農産物・書籍・身土不二・酒粕・クッキー・お米等を販売しています。

13:30～15:00　**【基調講演】**

**タイトル：食の主権をとりもどせ　ローカルフードという希望**

**講　師：堤　未果（つつみ・みか、国際ジャーナリスト）**

講演後・会場で購入された著書へのサインをしていただけます（廊下にて）

15:15～15:55　**意見交換会・まとめ（会場内）**

15:55～16:00　おわりの言葉・石田卓成（副会長）